



停留精巣と移動性精巣	1ページ
三重病院職場訪問 タケオの部屋③ / 「市民公開講座」のお知らせ / 医療福祉相談室だより	2ページ
新任医師紹介 / 糖尿病ワンポイントのお知らせ / 医療安全管理室からのお知らせ⑬	3ページ
アレルギー教室のクッキング / 外来からのお知らせ / 外来診察のご案内	4ページ

## 停留精巣と移動性精巣

えっ?  
移動するの?

赤ちゃんが、まだ、お母さんのおなかの中にいるとき、精巣は赤ちゃんのおなかの中でできます。その後、精巣が移動して、出生前ごろに陰嚢(ふくろ)の下の方におさまります。この移動の過程で何らかの異常がおこり、**陰嚢の下部に精巣がない状態を停留精巣**といいます。

陰嚢は、薄い皮で、皮膚にしわがあり、精巣を冷やす役割をします。しかし、精巣が腹腔内・鼠径部・陰嚢などの高い位置にあると、**精巣が温められて、精子を作る機能が低下し、将来の不妊の原因となります。**また、**放置すると精巣に悪性腫瘍が発生する危険が高くなります。**したがって、停留精巣の場合は、精巣があるべき場所に下ろしてあげることが必要で、そのためには手術が必要です。

停留精巣の場合、生まれてから1歳くらいまでは、精巣は陰嚢の方向へ移動することがあります。しかし、**1歳以降は、待っていても精巣が理想的な位置へ移動していくことは期待できません。**したがって、当院では、1歳前後に手術を行っています。

手術は精巣を陰嚢の下の方へ移動させて、固定する手術です。手術は、全身麻酔で行います。下腹部のしわの上に約3~4cmの皮膚切開と、陰嚢の下の方に約1cm皮膚を切開して、陰嚢の皮膚に精巣を糸で固定します。

また、**停留精巣と非常に区別が付きにくい移動性精巣という病気があります。**この病気は精巣周囲の筋肉の収縮により、精巣が陰嚢より上へ移動しやすい状態をいいます。生後6ヶ月頃から症状が現れるようになり、思春期前後で症状が消失していきます。

移動性精巣の場合、精巣に委縮がみられる場合や、精巣が1日の大部分の時間挙上しているような場合、思春期以降も症状の改善がない場合に手術が必要な場合があります。しかし、精巣を触ったり、確認しようとすると、**精巣の周りの筋肉が、緊張や刺激によって収縮し、精巣が上がってしまっている可能性があります。**ですので、入浴中など、リラックスした状態で観察することが必要です。

移動性精巣については、ご家族のお話を聞きながら、手術の必要性につき十分検討し、相談させてもらっています。手術は、停留精巣と同様の方法で行います。

**停留精巣、移動性精巣を疑われた場合には、早めに小児外科に受診して、手術の必要性や手術時期について相談頂ければと思います。**(小児外科 松下 航平)

